〔萬葉集四相聞〕吹黃刀自歌

河上乃伊都藻之花乃何時何時來益我背子時自異目八方

〔古今和歌集四秋〕これさだのみこの家の歌合のうた　讀人しらず

いつはとは時はわかねど秋のよぞ物思ふことの限成ける

〔書言字考節用集二時候〕何時（イツゴロ）　何比（同）

〔古今和歌集十八雜〕貞觀御時、萬葉集は、いつばかりつくれるぞとはせたまひければ、讀てたてまつりける。（略歌）

〔源氏物語一桐壺〕いづれの御時にか、女御更衣あまたさぶらひ給けるなかに、（略下）

〔伊呂波字類抄疊字〕古今

〔書言字考節用集二時候〕古今（イニシヘイマ）增韵、古遠代也、又久也、韵瑞、今是時也、又對古之稱、

〔古今和歌集序〕歌のさまをも、こと、の心をえたらん人は、おほぞらの月をみるがごとくに、いにしへをあふぎて、いまをこひざらめかも、

〔源氏物語三十二梅枝〕かうどもは、昔今のとりならべさせ給て、御かたぐにくばり奉らせ給、

〔類聚名義抄九〕今（音金　イマ　コム）　如今（イマ）　今者（イマ）　方今（イマニ）

〔段注說文解字五下〕今是時也今者對古之稱、古不一其時、今亦不一其時也、云是時者、如言目前、則目前爲今、目前已上皆古、如言趙宋、則趙宋爲今、趙宋已上爲古、如言魏晉、則魏晉爲今、魏晉已上爲古、班固作古今人表、漢人不與焉、而謂古今人者、謂近乎漢者爲今人、遠乎漢者爲古人也、作古今人表者、所以補漢書之所無存漢已前之厓略也、亦謂三皇至漢以前、迭爲古今人也、古今人用字不同、謂之古今字、張揖作古今字詁、是也、自張揖已後、其爲古今字、又不知幾更也、古今音之不同、近世言之最詳、自商周至近世、不知凡幾古今也、故今者無定之畧、約之以是時、則兼賅矣、召南傳曰、今急辭也、今急疊韵、从亼乀會意、乀逮也、乀亦聲、居音切、七部、

〔書言字考節用集二時候〕如今（イマ）白文集　且今（イマカ）且今萬葉　于今（イマニ）

〔東雅一天文〕今（イマ）略中　今イマ、古語にはウマともいひけり、日本紀　イといひ、ウといふは轉語なり、